

第 230 回 大阪市の林市蔵像と疏水工事の「殉職者之碑」

筆者：林 久治（記載：2023 年 4 月 9 日）

（1）前書き

私（筆者の林）は [Random Walks（乱歩）](#) という題名で [偏屈老人（林久治）の気促な紀行文](#) のサイトを始めている。私の紀行文では、通常の紀行文にはない、斜め目線からのご紹介を書くことに拘りたいと思います。通常の紀行文に関しては、既に優れたサイトが沢山ありますので、それらをも引用しつつ、ユニークなご紹介を記載することに心掛ける所存です。

一方、私は日本の銅像探偵団 ([1\) のサイト/](#)) の銅像探索に参加している。私は珍しい銅像を探して、探偵団の団長さんに「ギャフン！」と仰っていただけることを目標としている。ここで「珍しい」とは、「①見つけ難い場所に隠れている有名人の銅像。②市井で頑張って人生を過ごしたが、有名人ではない人物の銅像」と言う意味である。私は自宅が東京にあり、孫達が大阪にいますので、主として東京近郊と近畿地方で銅像探索を行っている。最近、私はネット記事を丹念に調査し、そのような「スクープ銅像」の候補を多数見つけている。

武漢肺炎による自粛生活で家に籠っていると、運動不足で体重が増加するし、精神的にも圧迫を感じる。私の銅像探索は不要不急の活動ではなく、私の生存に必要な不可欠である。今年の 7 月は、第 7 波と猛暑のため、私は銅像探索をしばらく自粛していた。しかし、大阪在住の 3 人の孫達は夏休み前に感染したが軽症であった。そこで、私は 9 月初旬に大阪に行き、近畿の銅像を探索した。東京に帰ってから、運動を兼ねて銅像探索を続けている。私の銅像探索記の全ては、[2\) のサイト/f](#) から閲覧出来ます。

私は 3 月 21 日から 31 日まで、大阪に滞在し孫達の世話をした。その間に、銅像探索も少しは出来た。[227 回の記事/f](#) では、その中から大阪市の弘世像の探索記を記載した。[228 回の記事/f](#) では、茨木市の奥田光像の探索記を記載した。[前回の記事/f](#) では、京都市の田辺朔郎像の探索記を記載した。今回は、大阪市中央区の林市蔵像の探索記を記載する。本像は [1\) のサイト/](#) には収録されているが、基本情報が記載されていないので今回探索した次第である。なお、本稿では私の意見などを **青文字** で、資料の内容などを **緑文字** で記載する。

（2）大阪市中央区の林市蔵像

3 月 28 日、私は阿波座駅前まで弘世像を探索した後、淀屋橋駅に行って林市蔵像を探索した。本像はユニークな形状をしており、「大阪市で第一の銅像」との評判もあるので、本像をついでに探索した次第である。

次ページの図 1 上に、淀屋橋駅の周辺地図を示す。本図にありのように、林像は淀屋橋駅近くの土佐堀川の川岸に設置されている。図 1 下に、林像の全景を示す。本像は和装でお顔が横を向いているのが特徴である。本像に向って右側に 1 基の石標があり、前に 1 基の石碑と左側に 2 基の石碑があった。



図1.
上：淀屋橋駅の周辺地図、
下：林市蔵像の全景。



次ページの図2左に林市蔵座像を図2右に石標を示す。石標正面には「**方面委員 民生委員始祖 林市蔵先生肖像**」と彫られていた。この石標の他の面には、次のように彫られていた。

民生委員制度五十年記念 明治百年記念

昭和四十三年 十一月三日 西岡種次郎康慶 (昭和43年は1968年)

上記の文を見て、私は「本像は1968年に西岡種次郎により制作された」と思った。



図2.
左：林市蔵座像、
右：向って右側の石標正面。



図2左が示すように、本像は石製の椅子に腰かけている。従って、本像背面は殆ど見えなかった。通常は、そこに制作者名や制作時期が彫られているはずである。しかし、それらは見えなかつたが、これから示す資料から、「**本像は1968年に西岡種次郎により制作された**」とは考えられない。西岡種次郎のネット記事は殆どなく、私は以下の資料（[3](#)）の[サイト/1](#)）しか発見出来なかつた。

書籍：世帯更生（社会福祉選書）

著者：世帯更生事例編集委員会編、出版者：全国社会福祉協議会、出版年：1955

11章：就籍許可書（大阪府・西岡種次郎/p102）

上記の資料より「**西岡氏は大阪府の社会福祉の専門家である**」ようであるが、それ以上の情報は無かつた。

林像の前には、1基の石碑があつた。その写真を次ページの図3上に示す。それには、次のように書かれていた。

民生委員制度創設百周年記念碑

大正七年から始まつた大阪府方面委員制度は、方面委員が一定の地域を担当し、訪問調査などにより世帯の現状を把握し多様な相談支援を行うとともに、救済機関へ迅速につなげるといった役割を担っていました。大阪府方面委員制度は、その後全国に普及することとなり昭和、平成と続き、現在の民生委員制度の基礎として受け継がれています。

平成三十年五月

大阪府民生委員児童委員協議会連合会 大阪府民生委員児童委員協議会 堺府民生委員児童委員協議会

(なお、大正七年は 1918 年、平成三十年は 2018 年である。)

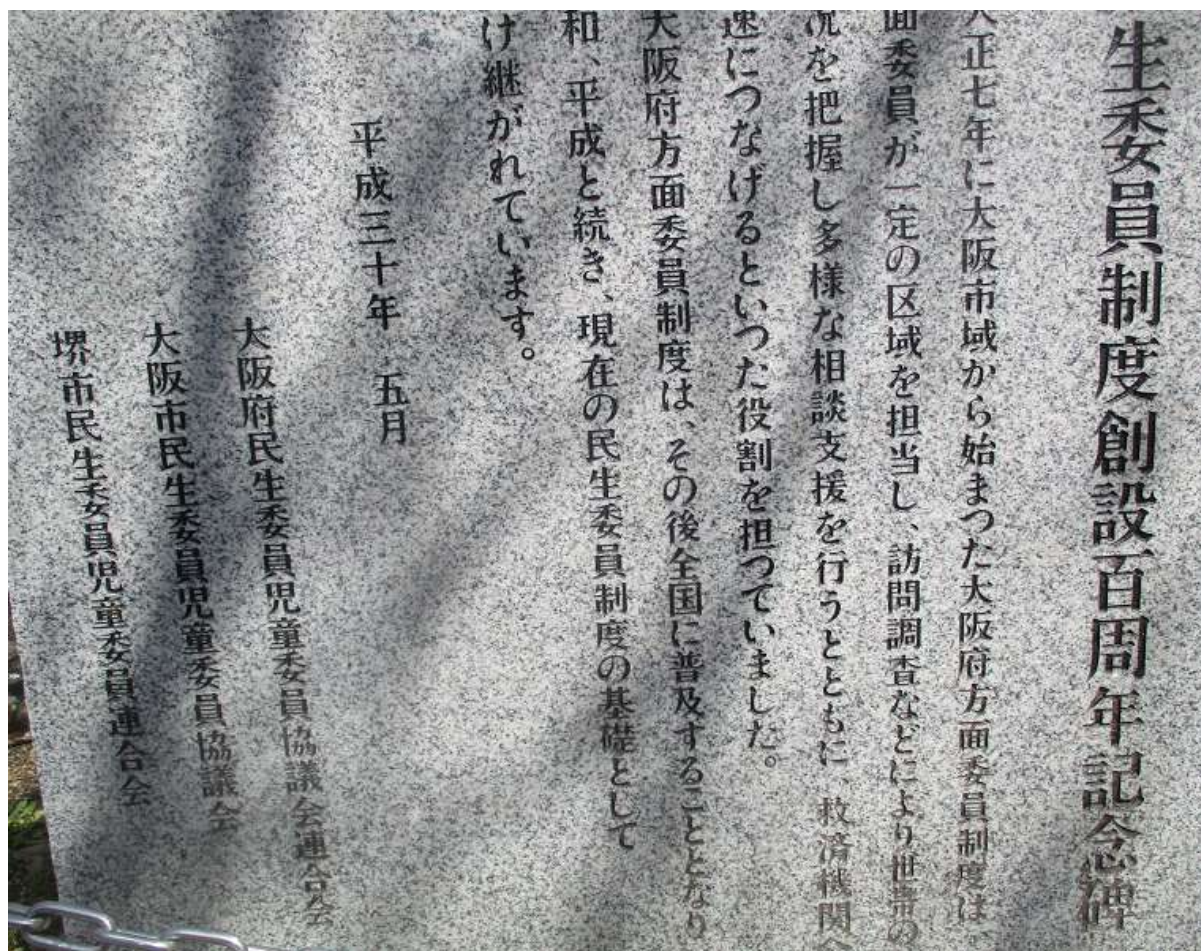


図3.
上：林像の前に設置された「民生委員制度創設百周年記念碑」の石碑、
下：林像の左横に設置された2基の石碑の左側。

林像の左側には2基の石碑があったが、それらの内で左側の石碑を図3下に示す。それには、以下のように書かれていた。

林市蔵先生記念像 昭和二十八年秋建立 大阪府民生委員一同

なお、昭和28年は1953年である。従って、「本像は1968年に西岡種次郎により制作された」とは考えられない。



図4. 林像の左側にある2基の石碑うち、右側の石碑

図4に、林像の左側にある2基の石碑うち、右側の石碑を示す。本碑の内容は、林像の概要欄に記載する。以上が、林像の周りにある資料の全てで、結局、制作者は不明であった。私は本像の制作者を見つけるために、ネット記事を調査したが、碓井 隆次氏の「淀屋橋畔の林市蔵先生記念像：大阪府方面委員制度の由緒」と題する論文(4)のサイト/f)を発見した。本論文は、林像の由来と方面委員制度(現在の民生委員制度)の由緒に関する非常に優れた力作である。この中に「この銅像は彫刻家故渡辺義知氏の作である」と書かれていた。

渡辺氏の略歴は、5)のサイト/1)に次のように書かれている。

彫刻家、元二科会々員渡辺義知は、1963年2月17日脳軟化症のため東京都豊島区の自宅で逝去した。享年73才。明治22年4月11日東京の都心、銀座で生れた。はじめ日本美術学校で彫刻を研修、大正末年頃より二科展彫刻部に作品を発表しはじめ、第12回二科展(大14)に「女の首」、第13回二科展に「マダムAの首」「マルマゲの首」など初期には頭像を主に出品した。昭和3年第15回展で「泉の一部」他2点で二科賞を受け、同会会友に推され、昭和6年3月には会員に推挙された。同年、二科会の研究所である番衆技塾の指導者になり、先輩の藤川勇造と共に彫塑科を担当指導した。昭和7年渡欧した。以来二科彫刻の中心的存在となり、殊に昭和8年から戦争渦中にかけて、連年二科展に発表した「国土を譲る」の記念像連作は、時局精神作興の要望に応え、斯界における有力作家としての名声を高からしめた。戦後、二科会復活に逸早く参加したが、昭和21年、民主日展への参加問題に関する意見の衝突のため、同会から除名され退かざるを得なかった。晩年の主な作に、「シジフォス」(昭35・第3回日展招待)、「白雲」(昭36・第4回日展招待)や「広島赤十字原爆殉職者慰霊塔」(昭36)などがある。

ウィキペディアには、林氏の経歴や業績が詳しく書かれている。以上の資料などにより、林像の概要は次の通りである。

林市蔵先生座像

設置場所：大阪市中央区北浜 4-1 淀屋橋南詰

制作者：渡辺義知（1889-1963）

建立時期：1953 年秋

建立者：大阪府民生委員一同

設置経緯：林市蔵氏（1867 年 12 月 23 日- 1952 年 2 月 17 日）は、熊本藩士・林慎蔵の長男として生まれる。五歳で父が死去し、母・亀寿により育てられ、苦学して済々黌中学、第五高等学校を経て、1896 年 7 月、帝国大学法科大学政治学科を卒業。拓殖務省に入り拓殖務属となる。1897 年 7 月、拓殖務省の廃止に伴い内務省に移り内務属として北海道局に配属された。その後、警察官僚を歴任。1908 年 7 月、三重県知事に就任。同年 12 月、東洋拓殖株式会社理事に転じ、1916 年 11 月まで在任。1917 年 1 月、山口県知事となり、同年 12 月、大阪府知事に異動した。1918 年、現在の民生委員の前身である方面委員制度を、知事顧問（大阪府嘱託）小河滋次郎と共に考案して創設し、府に救済課を設置した。1920 年 2 月 3 日、大阪府知事を依願免本官となり退官。以後、日本信託銀行頭取、大阪堂島米穀取引所理事長などを務めた。本像は、「理髪店の椅子に腰をかれ、生活に困窮する夕刊売りの母子を見つめる姿（和服で横向き）」が表現されている。林氏は「民生委員の始祖」と呼ばれている。

本像横の石碑には、次のように書かれている。

大正七年世界大戦の直後物価奔騰して民衆の苦難甚しく米騒動勃発して世相不安を極めた時の大阪府知事林市蔵先生偶々ここ淀屋橋畔の調髪所において鏡面に映る新聞売母子の憐むべき姿と家庭の窮状に深く心を打たれこれが社会的対策の極めて緊切なるを痛感し府嘱託小河滋次郎博士の調査研究と慎重考慮の結果府下に方面委員を設置せられた

これ我国における民生委員制度の晴矢であり爾來急速に発達して全国に普及され社会事業推進の中核をなすに至った

しかし此の間林先生には終始一貫熱誠を傾けて本制度の育成発達に努力せられたが昭和二十七年二月二十一日その偉業を遺して逝去せられた

我等府下五千名の民生委員は深く先生の高徳を慕いその功績を讃仰すると共に民生委員事今後の発展に資すべくここに本制度発祥の地に先生の記念像を建設しこれを不朽に伝えんとする
大阪府知事赤間文三撰並びに書

（3）疏水工事の「殉職者之碑」

[前回の記事/f](#)では、京都市の田辺朔郎像の探索記を記載した。田辺像の近くに、琵琶湖疏水工事の「殉職者之碑」もあった。容量制限の関係で、前回は本碑を紹介することが出来なかったため、ここでその紹介を記載する。次ページの図5に、「殉職者之碑」を示す。本碑の紹介は、[6\) のサイト/30](#)や[7\) のサイト/1](#)に書かれている。

以上の資料などにより、本碑の概要は次の通りである。

殉職者之碑

設置場所：京都市東山区東小物座町

碑文（表面）：殉職者之碑 京都市電気局

碑文（裏面）：昭和十六年十一月建之 京都市電気局電気課職員一同
京都市長加賀谷朝蔵書

（なお、昭和 16 年は 1941 年である。）



図 5. 田辺像の近くに設置された琵琶湖疏水工事の「殉職者之碑」

「殉職者之碑」の前には、もう 1 基の新しい石碑があった。その写真を次ページの図 6 上に示す。後者は前者を説明する碑である。説明の碑には、次のように書かれていた。

この碑は、琵琶湖疏水の建設工事中に事故や病気により殉職された方を弔う為、昭和 16 年 11 月、琵琶湖疏水事業を所管していた京都市電気局の職員により建立されました。

明治 23 年に竣工した琵琶湖疏水は、我が国最初の事業用水力発電所や運河、灌漑用水等に利用され、東京遷都により産業が衰退した京都のまちの復興を果たしてきました。現在も京都市民の命を支える水道や発電、防火用水等に広く利用されています。この琵琶湖疏水の建設工事は、主任技術者である田邊朔郎を中心に外国人技術者の手を借りることなく実施し、当時の日本人の学び得た技術を最大限実地に応用した画期的かつ大規模なものでした。題字は当時の京都市長加賀谷朝蔵によるものです。

京都華頂ライオンズクラブ 結成 40 周年記念事業

[前回の記事/f](#) で記載したように、田辺像は 1982 年に京都華頂ライオンズクラブの結成 10 周年記念として建立された。従って、上記の説明石碑は、その 30 年後の 2012 年に制作されたことになる。（本文は、9 ページに続く。）

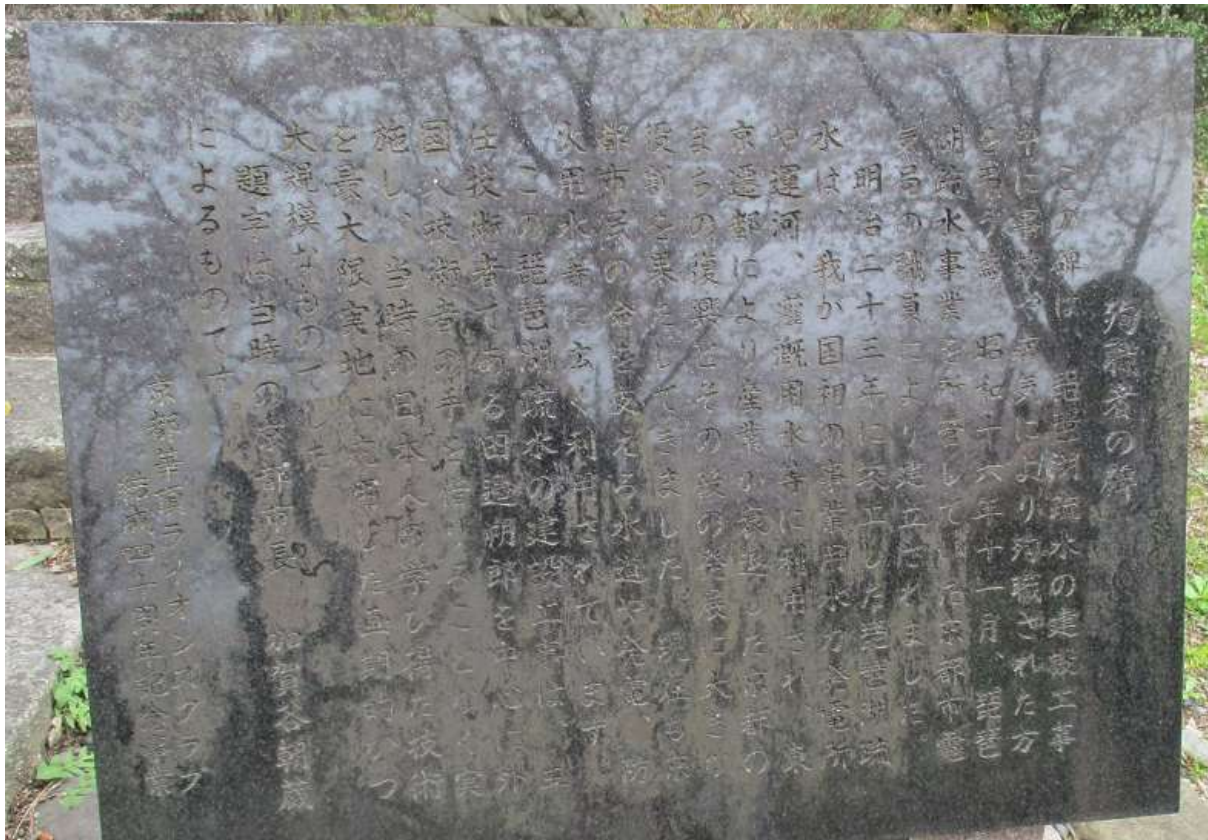


図 6. 上：「殉職者之碑」を説明する石碑、下：「琵琶湖疎水工事殉難者碑」。

[6\) のサイト/30](#)によれば、田辺像と殉職者之碑とのさらに上流部に、「琵琶湖疎水工事殉難者碑」が設置されているそうである。今回、私は本碑の存在を知らなかったのので、探索することが出来なかった。[6\) のサイト/30](#)は、本碑を次のように説明している。

疎水建設工事で殉職した人々の慰霊碑です。弔魂碑は、明治 35 (1902) 年に田邊朔郎が私費で建立し、背面には殉職者 17 人の氏名が刻まれています。

図 6 下には、[8\) のサイト/1](#)から拝借した「琵琶湖疎水工事殉難者碑」を示す。本碑の表面には、田邊朔郎の筆で、次のように書かれている。

「一身殉事萬戸霑恩」（いっしんことにじゅんずるはばんこおんにうるおい）

参考資料

- 1) のサイト：<https://douzou.guidebook.jp/>
- 2) のサイト：<http://masaniwa.web.fc2.com/Ranpo.pdf>
- 3) のサイト：<https://dl.ndl.go.jp/pid/3032015/1/1>
- 4) のサイト：<file:///C:/Users/h-hay/Downloads/2009000341.pdf>
- 5) のサイト：<https://www.tobunken.go.jp/materials/bukko/9028.html>
- 6) のサイト：<https://biwakososui.city.kyoto.lg.jp/place/detail/30>
- 7) のサイト：
<https://www2.city.kyoto.lg.jp/somu/rekishi/fm/ishibumi/html/hi194.html>
- 8) のサイト：<http://tabikappa.blog55.fc2.com/blog-entry-9040.html>